

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0771100013		
法人名	医療法人 崇敬会		
事業所名	グループホーム「さくら」 東館		
所在地	福島県田村市船引町船引字馬場39-1		
自己評価作成日	平成27年10月30日	評価結果市町村受理日	平成28年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成27年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分のペースでその人らしい生活が送れるよう支援している。
併設に医院がある為、健康面のケアが充実している。
家族との信頼関係を大切にしている。
ウッドデッキや畑があり、外でお茶会をしたり野菜作り等が楽しめる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 運営母体が医療法人であり、医療機関に併設されており、医療面や健康面で連携が密に行われ、利用者及び家族の安心に繋がっている。
2. 利用者に寄り添い、それぞれの生活リズム合わせた支援をしており、家族の満足度も高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所等目の届く所に理念を掲示して共有している。実践に繋がるよう努めている。	理念は事業所内に掲示している。しかし、開所より同じ理念なので、利用者のニーズ、事業所の状況の変化等で現状にあっているかどうか、全職員で話し合い、見直しをして欲しい。また、理念を共有するための話し合い等もして欲しい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的にボランティアを受け入れたり、地元の美容師さんに理髪をしてもらったりして、地域との交流を図っている。施設の周りで会った方とは挨拶を交わしている。	地域行事の祭りや敬老会、スーパーへの買い物や散歩等での外出を通して交流している。また、近隣の保育園児と行事等を通して交流したり、ボランティア(傾聴、読み聞かせ、訪問理髪等)も多く受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者の家族等には活かしていると思う。専門学校で学生さんの実習を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催している。行事や事故報告、その時困っている事を議題にあげて意見をもらっている。会議内容は職員会議で報告し、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は定期的に開催され、入居状況、事故や行事内容、外部評価結果報告や困り事の相談等を議題として取り上げ、委員から助言をもらっている。委員の構成には地区長、地域包括支援センター、家族と利用者となっているが、家族の参加が全くない。	家族の参加を促すとともに、幅広い分野から委員の参加を呼び掛けて欲しい。併せて、非常災害時の地域との連携等についても話し合ってもらいたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に入居状況の報告をしている。災害時は毎回市から連絡があり、やりとりできる体制を作ってもらえている。	行政の担当者とは、定期的に事業所の利用状況等現況報告をしたり、居住地住所の扱いや成年後見制度等、報告や相談をしながら連携を図り、協力関係を築いている。また、市や地域包括支援センター等とのネットワークが組織され、様々な情報交換がされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに努めている。玄関はセンサーで開いたのが分かるようにしている。	日々身体拘束をしないケアに取り組んでいる。しかし、「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や、事業所で定めたマニュアルの内容についての研修が不十分であるため充実を図ることとしている。なお、日中の玄関の施錠はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起こらないよう声かけや接し方に注意している。今後も努力を続けたい。学ぶ機会を設けたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用を開始した方がいるので、早急にきちんとした勉強会を開きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書類の説明を行い、きちんと理解・納得して頂いてから同意の署名等を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望を伺うようにしている。その内容を運営推進会議で話すこともある。入居者の方々も意見が言いやすい環境作りに努めている。	利用者の意見や要望は日々の会話や仕草から把握し、家族からは訪問等の機会を通して、相談や要望を聞いている。出された意見等は職員会議で検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第一月曜日に職員会議を行い、その中で意見が言える場を設けている。必要に応じて代表者に伝えている。	管理者は、職員が会議や日々の業務の中で、気軽に提言や意見を言える雰囲気作りをしている。出された提言や意見は、運営に反映させている。また、職員の表情等を見ながら、声掛けをしてコミュニケーションを取るようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるような環境整備に努めたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は法人内の研修の機会は設けられなかったが、外部研修の参加希望には対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設として外部と交流する機会は設けていないので、今後取り組んでいけたらと思う。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前調査で本人が困っていること等を伺ったり、入居後も本人の話を傾聴して安心して生活できるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前調査で家族が困っていることや要望を伺い、それに配慮して介護していくことでよい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階で、その時に合ったサービスを紹介する対応も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは行ってもらったり、一緒に作業を行いながら共に生活する関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の様子をありのまま伝え、本人にとってよい生活が送れるよう意見を交わしながら一緒に本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚・知人の面会がある。家族や知人と外出する方がいる。時々家族に手紙を出す方がいる。今後もその関係が途切れないよう支援したい。	家族や友人の訪問や、事業所周囲の散歩や外出等を通して、馴染みの関係が継続できるよう支援している。また、馴染みの美容師による訪問理髪を受けたり、毎月訪問されている傾聴や読み聞かせのボランティアの方々との、新たな馴染み関係も出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で談笑するような関わり合いができている。個々の性格等を把握し、孤立したりトラブルにならないよう職員が間に入って関係を取り持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応できる。退居後も入院中はお見舞いに行ったり、亡くなった場合は焼香に行く等している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族から話を聞いたり日々生活を共にする中から、思いや意向の把握に努めている。本人にとって何が一番なのかを話し合い検討している。	日頃の関わりの中から思いや意向を把握し、意思疎通が困難な利用者には、生活歴や家族等から把握したり、行動や表情等から汲み取り、職員間で話し合いを行い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査、センター方式の活用、本人・家族から話を聞く等して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日健康チェックを行い、変化に気づけるようにしている。一緒に生活し、毎日の様子を記録することで現状の把握と情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からどのような生活を送りたいかを伺い、その方に合ったサービスが提供できるよう職員間でよく話し合い、介護計画を作成している。	利用者の思いと家族の要望を踏まえ、残存機能を活かし役割を持たせた介護計画を作成している。また、介護支援記録をもとに、モニタリングとカンファレンスを行い、定期的に介護計画の見直しをし、状態に変化が生じた時は、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化・気づきを記録・申し送りして情報共有。介護計画に関する記録にはチェックを入れて、見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて職員は勿論、市や地域包括の方々とも協力しながら、臨機応変に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、傾聴ボランティア・朗読奉仕を受け入れている。定期的に地元の美容師さんに理髪を行ってもらっている。毎年9月は、敬老の日にちなんだ地元の美容師さん達が無料でカットをして下さっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医や急変時の搬送先の希望を必ず確認している。普段も急変時も適切な医療が受けられるよう支援している。	医療法人運営の事業所で、利用者は内科や外科等は、併設の同法人運営の医療機関をかかりつけ医としている。その他の受診科目や緊急時は、家族付き添いを原則として、希望する医師の受診が出来るよう支援している。受診結果の情報は家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護師が来て健康状態の確認や健康面の相談・助言、皮膚状態の経過等をみてもらっている。また、いつでも相談・報告できる環境が整っており日常的にやりとりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も家族や医療機関と情報交換を行っている。病院関係者からの連絡・相談には随時対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針に関する書類があり、入居前に説明し同意を得ている。本人の現状を常に家族と共有。状態に合わせて家族・医療機関と相談しケアの方向性を決めている。	重度化や終末期の指針を契約時に家族と話し合い、同意を得ている。状況変化時は本人、家族、担当医等関係者と話し合い、方針を確認しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルがあり、それに沿って対応できるようになっているが定期訓練は行えていない。何かあった場合は、併設医院に連絡しすぐに指示がもらえる体制になっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。実際に大雨が降った時には、市から連絡があり状況等のやりとりができた。	年間2回、消防署の指導を受けながら、夜間想定を含む避難訓練や通報訓練を実施している。また、災害に備えた食料品等が備蓄されている。	火災や地震、水害等の発生を想定した避難訓練等、数多く実施して欲しい。併せて、消防機器の操作訓練や、地域との協力体制の構築を図って欲しい。
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重する言葉かけに努めているが、時として反省する事もある。意識して対応していきたい。	契約時に利用者や家族に、事業所の個人情報利用や、管理の方法について説明し、同意を得ている。また、日々の支援の中で、言葉遣いや羞恥心に配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	自分の希望が言えるような環境作りに努めている。本人が自己決定しやすいよう、一人ひとりに合わせた言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしても時間的制約はあるが、その中でできる限り希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝必ず身だしなみを整えている。一緒に服を選んだり、気温と格好が合っていない時は助言したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理は主に職員が行っている。野菜を切ったり、お茶を淹れてもらうことがある。配膳を行ってくれる方がいる。美味しく食べてもらえるよう明るい声かけに努めている。	法人の管理栄養士が献立を作成し、調理は主に職員が行い、利用者は配膳や食器洗い、テーブル拭き等を行っている。食前に献立内容を説明し、職員と一緒に食事を味わっている。また、季節の行事食等も加えながら、食事が楽しいものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成している。個々に応じた食事形態や量で提供し、摂取量もチェックしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた方法で、義歯の洗浄を行ったりガーゼで口腔内を拭き取ったりしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。リハビリパンツから綿パンツになった方がいる。オムツの方でも訴えや時間・様子でトイレ誘導をして、心地よく過ごせるよう努めている。	一人ひとりの排泄自立状況を把握し、羞恥心に配慮し、トイレで自立した排泄ができるよう支援している。排泄の自立度が向上した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を摂って便秘予防している方がいる。水分摂取を促したり、個々に合わせた下剤内服で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴の希望を確認している。時間帯はある程度決まっているが、その中で個々の希望に合わせた支援をしている。自分から訴えられない方は体調をみて定期的に入浴できるよう対応している。	希望に合わせた入浴支援体制にあるが、全員週2回の入浴支援をしている。入浴を拒む人に対しては、対応やタイミングを変えて、できるだけ入浴して頂くよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の自由に休んでもらっている。訴えられない方は、疲れすぎないよう状態を見ながら対応している。日中の活動量を増やしたり、安眠できるような環境整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のお薬説明書がすぐに確認できるようになっている。飲み忘れや誤薬の無いよう職員間で声をかけあい責任を持って介助している。薬の変更で薬疹が出しまった方がいて、併設医院と連携して対応した。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	たたみ物等の仕事を役割としている方がいる。塗り絵や計算問題・散歩等を楽しみごととして行っている方がいる。生活歴の把握が気分転換の支援に繋がっている。もっと充実させてあげたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩に行くことはあったが、もっと日常的に行きたい。友人とドライブに出かけたり、地域の方と協力して自宅に行けた方がいた。	散歩や買い物等に出かけたり、家族の協力を得ながら、買い物やドライブ、外泊等の外出支援をしている。なお、利用者の重度化に伴い、花見等遠出が難しくなり、近隣の外出が多くなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が事務所で管理し、お小遣い帳をつけて家族に報告している。買い物の時に本人にお金を支払ってもらうことがあった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に手紙やハガキを書いて出している方がいる。返事も来る。妻の誕生日にお祝いのハガキを書いて、とても喜ばれていた。機会が増やせるよう支援を続けたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けや入居者の作品・生活風景の写真を掲示している。庭に咲いた草花を飾ったりもした。日差しや気温にも気を配っている。	天井が高くゆったりした空間で明るく、床暖房が整備されている。また、観葉植物や季節のインテリア、利用者作品や行事写真が多く飾られ、生活感があり季節を感じることができる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳場やテーブル席のあるフロアで、それぞれが好きな場所で過ごせている。それぞれの定位置がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	家族写真を飾ったり、仏具を置き毎朝ご飯とお水をお供えしている方がいる。更にその人らしく暮らせる部屋となるよう、環境整備に努めたい。	プライバシーに配慮された洋式の居室に、家族写真や位牌、テレビや冷蔵庫、タンス等、思い思いの物を持ち込み、その人らしく暮らせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	戸に貼り紙や写真等で目印を付け、自分で居室やトイレに行けるようにしている。ぶつかりやすい所にはタオル等を巻いて保護し、安全に動けるように工夫している。		